

## 指定管理者評価シート

## 一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市歴史民俗資料館	
2 指定管理者	公益財団法人 仙台市市民文化事業団	
3 指定期間	平成29年4月1日～令和4年3月31日	
4 施設の利用状況	《利用者数》 ・令和3年度 9,238人（前年度比 95.5%） ・令和2年度 9,678人（前年度比 31.5%） ・令和元年度 30,747人	
	《事業》 ・市指定文化財である歩兵第四連隊兵舎の維持管理、江戸時代から現代の歴史・民俗資料の収集・整理及び常設展示、年3回の企画展・特別展と年4回の季節展示、調査研究事業、普及啓発事業	
5 収支の状況	《費用》 ・ 指定管理者に支払った費用 68,132千円（68,670千円） ・ その他市が負担した費用 16,793千円（396千円） ( )は前年度決算額	
	《収入》 ・ 使用料収入 646千円（692千円） ・ その他収入 202千円（356千円）	
6 利用者の声	《実施状況》 ・利用者アンケートを令和3年12月に実施 ・特別展、企画展毎にアンケートを実施	

## 二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	施設の設置目的に基づいた管理運営上の基本方針が確立しており、職員に周知の上、業務が遂行されている。また、資料の収集・展示、解説・講座の開催、学校や地域団体との連携等により、本市の歴史文化の保護・向上に資するといった目的を達成している。	27/27
II 施設の運営管理体制	職員の勤務実績、配置状況は適切であり、事業計画書の通り開館し、指定管理料も適正に執行されている。個人情報保護や事故防止対策、事故対応・災害対応については研修等を通じて職員に周知され、体制も整えられている。防災訓練は地域住民の参加を得られるよう、関係性が構築されている。	24/24
III 施設・設備の維持管理	建物が仙台市指定有形文化財「旧第四連隊兵舎」であることを踏まえ、所管課・関係課と適時調整しながら施設の維持や備品管理に取り組むとともに、内部や外周の美化に努める等、市民等が安心・安全に利用できるよう、適切に管理されている。また、紙・ファイルのリサイクルや節電・節水など、仙台市環境行動計画が実践されている。	24/24
IV サービスの質の向上	職員の接客マナーや受付・案内は適切であり、標準的な業務はマニュアル化されている。職員の教育・研修も適宜行われ、利用者アンケートの結果等は定例のミーティングを通じて共有し、改善を図っている。パンフレット・チラシ以外に令和2年度からはTwitterを、令和3年度からはYouTubeを開始するなど、情報発信にも積極的に取り組んでいる。	28/28
V 施設固有の基準	協定書や仕様書に基づき施設を適切に管理するとともに、NPOと連携を図り、近隣施設や町内会等と良好な関係を保ちながら、事業計画書に基づき事業を実施している。資料の収集・整理・保管については、資料の収集基準や収蔵室の整理方針を引き続き検討する等、積極的な取り組みがなされた。普及啓発事業については、新型コロナウイルス感染症対策として規模を縮小ないし中止せざるを得なかったものの、開催された展示やイベントは市民から好評であり、さらなる充実が期待される。	12/12

### 三 評価総括

《指定管理者（公益財団法人仙台市市民文化事業団）による自己評価》
<p>施設の管理運営では、新型コロナウイルス感染症のまん延防止のため前年度3月から引き続き5月初旬まで休館したことに加えて、昨年2月の地震被害の復旧工事のため5月初旬から継続して臨時休館が続き、再開館は7月21日になった。また、その後も8月末から9月初旬にかけて感染症拡大防止のため再度休館したこともあり、集客が見込めた4月の花見シーズンや5月の連休のイベントが開催できず、入館者数はやや減少した。学校見学については仙台市内の小学校43校3,031人の児童が授業の一環として団体で来館し、石臼挽き体験や行灯の明かりを見る体験学習は402回実施しており、例年同様に学校関係の利用は順調に継続している。また、新たにYouTubeチャンネルを開き、企画展の内容を紹介する番組の提供をはじめ、さらなる情報提供に努めた。</p> <p>資料の収集・整理・保管に関わる事業では資料の寄贈が48件3,463点にのぼり、資料の収蔵点数は96,000点を超えた。調査研究事業では、当館の建物を使用していた歩兵第四連隊が出動した日清戦争における台湾での戦いを記録した写真資料を資料集として刊行し、一年を通じて行っている学芸員による調査活動や研究成果をまとめた調査報告書を刊行した。展示事業ではすべてオリジナルな企画展と特別展を計3回開催し、関連イベント等を合計13回行い、収蔵資料の紹介と研究成果をわかりやすく紹介した。特に小学校からの学校見学が集中する冬季には「和の道具」と題した特別展を開催し、「昔の暮らし」について学ぶために団体見学でやってくる小学校の要望に応える内容とした。</p> <p>今後も仙台の町の歴史と人々の暮らしを後世に伝える施設としての役割と使命を自覚し、仙台市の文化行政を担う拠点の一つとして、市民の皆さまの付託に応えられるよう職員一体となって取り組んでいきたい。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>施設の管理運営体制、建物・設備の維持管理、公共施設としてのサービスの提供は適切であり、設置目的の達成に向け、本市の近現代史や民俗を扱ったさまざまな事業が展開されている。コロナ禍や災害復旧工事に伴う休館の影響から利用者数は伸び悩んだものの、学校利用事業は昨年度同様に順調であり、これまでの学校団体に対する取り組みの成果が表れているものと理解できる。また、新たにYouTubeチャンネルを開設する等、事業の広報や情報発信の取り組みを強化したことは評価される。一方で、業務体制の検討や事業内容の質の向上等、より意欲的な取り組みも望まれる。具体的には下記のとおりである。</p> <p>①資料の収集・整理・保管について、収集・整理方針の検討も行われているが、年々増加する資料に対して整理作業や台帳整備が十分に進んでいるとは言えない状況にある。すでに収集されている資料との関係を加味しつつ、内容を精査しながら収集するとともに、収集後の展示や体験学習への活用等を念頭においた合理的かつ効率的な整理・保管が望まれる。</p> <p>②資料の展示や調査研究について、リピーターを獲得している一方でテーマのマンネリ化が懸念される。40年超の館の歴史の中で収集・蓄積されてきた多様な資料や研究成果を踏まえながらも、新たな視点やアイデア、交流を通じて、本市の歴史・民俗等を多彩な切り口から紹介する魅力あふれる施設として運営されることを期待する。</p>	S

### 四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取り組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項
<p>令和3年6月にYouTubeチャンネルを開設し、企画展や特別展の展示内容を紹介する番組を作成・公開したほか、無形民俗文化財である仙台市内の神楽団体（生出森八幡神楽）を取材し、コロナ禍においてどのように芸能活動を維持しようとしていたのかを示す番組を作成し、映像記録として将来的に意義のある取り組みを実施している。</p>

◎ 評価担当課（施設所管課）：教育局生涯学習部文化財課